



医療法人 藤本クリニック診療所型認知症疾患医療センター
NPO法人 もの忘れカフェの仲間たち

28年度の活動始まる!



藤本クリニック 理事長・院長 藤本直樹

「医療法人 藤本クリニック診療所型認知症疾患医療センター」と、「NPO 法人もの忘れカフェの仲間たち」の28年度の活動が始まりました。

まず、ご報告させて頂きたいことは、昨年度末から今年度のはじめにかけて、スタッフみんなで、日頃の活動を様々な学会活動を通じて報告してきたことです。

まず、藤本は、3月に東京で行われた「在宅支援診療所連合会総会」で、1時間の講演の機会を頂き、クリニックの活動を報告しました。また、5月には、神戸での「日本神経学会」でのメディカルスタッフに対する教育講演で、スタッフとともに認知症診療についてお話ししました。次いで、6月はじめには、神戸での「日本認知症ケア学会」で、若年認知症の地域ケアについて、1時間半の特別講演を行いました。同じく6月半ばには、大阪で行われた「日本神経精神科診療所協会」で、2時間の特別講演と「田中健研究財団助成研究」の研究報告を行いました。また、同じく6月には、京都で行われた京都大学と京都府立医科大学が長年共同で行っている研究会で、オレンジプランにおける医療の役割について話しました。

スタッフも、神戸での「日本認知症ケア学会」で、合計5つの発表を行いました。これは、この学会での1施設での最多発表数でした。スタッフが毎年のように発表している学会ですが、5名の発表者全員が落ち着いて活動を発表したことと、日常の活動を丁寧に語ってくれたことが、印象に残りました。すべての発表に対して多くの質問を頂きました。また、発表までの長い期間、スタッフ全員がスライド作り、発表の練習などで協力しあってきたことが嬉しいことでした。

最後に、「田中健研究財団助成研究」での発表内容について触れておきますが、認知症の早期発見・早期治療の重要性が広く知られ、自らの意思で受診する人が増え

ている反面、苦勞して受診に連れてくる家族も少なくありません。しかし、受診に反発していた本人でも、初診時の看護師の聞き取り時に、記憶障害に苦しんでいるなどと訴えることは少なくないため、本人用、家族用それぞれの問診票を初診時に記載してもらい、その内容を診療時に話し合うことによって、本人が主体的に治療に取り組めるように試みたものです。結果を簡単に報告しますと、

- 認知症の人の医療機関への受診は、本人の拒否から困難が伴うと言われていますが、本人・家族とも、8割がもの忘れを理由とし、6割が実行機能障害に気づいての受診でした。
- 本人は、軽度期の方が自覚が強い傾向にありますが、進行期でも自覚はあるので、医療機関に、早期に受診できる体制づくりが必要と考えます。
- 本人は、「物探し」などが自覚しやすく、家族は、記憶障害などの他、“同時に2つのことが出来ない”などの、実行機能障害に気付きやすい傾向でした。
- 今回の結果を踏まえて、本人も自らに起っている出来事の原因を知りたがっていることの啓発と、診断後、発症初期の軽度期の外来心理教育など、病気に向き合った支援の充実が重要と考えます。

今後も、「医療法人 藤本クリニック診療所型認知症疾患医療センター」と、「NPO 法人もの忘れカフェの仲間たち」共々、認知症の本人主体の医療とケアを目指して、出来ることを地道に行っていきたいと思います。

今後とも、皆様方からのご支援をお願いします。

2016/6/30

医療法人 藤本クリニック診療所型認知症疾患医療センター
NPO法人もの忘れカフェの仲間たち

センター長／理事長 藤本直規

診療所型認知症疾患医療センター **藤本クリニック**若年認知症の地域ケアについて
藤本院長が特別講演スタッフと共に、
学会で日頃の活動を報告!

日本認知症ケア学会 IN 神戸

●●●●● 全員が堂々と日常の活動を丁寧に発表 ●●●●●



発表者：遠藤 淑子

本人、家族交流会の継続的な実践

運営方法と開催テーマの振り返りから

滋賀県診療所型認知症疾患医療センター
(医療法人藤本クリニック)
NPO法人もの忘れカフェの仲間たち遠藤淑子、奥村典子、大島享子、岩島美樹、
松本宏子、佐治千恵子、平井彩葉、藤本直規**考察**

最新情報の提供や関心の高い講義を毎年考え、また、テーマを決めて話し合う仕組みを実践したことによって、仲間関係を築くだけでなく、家族が積極的に参加して最新知識を得たり、意見を言う場として位置づいた。

また、本人たちも年齢や病期の違いに関わらず、共に過ごし、語り合う場となり、初めての参加者はこの場の経験から介護認定を受けることを受け入れはじめた。

更には、診断直後の参加を受け入れることで、本人家族を孤立させない仕組みにもなり、診断直後の支援体制の一つとして重要だった。

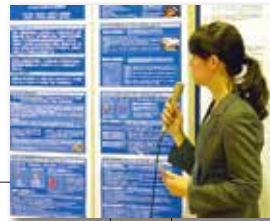
一方、交流会を開催するという役割だけではなく、交流会の参加状況や継続回数などにも目をむけることで、継続できなかった人々へのサポートの課題が整理され、今後更なる働きかけと情報提供が必要だと認識した。



発表者：岩島 美樹

**若年認知症の人を中心とした
仕事の場の4年間
働くことの意味とその見極めを考える**滋賀県診療所型認知症疾患医療センター
(医療法人藤本クリニック)
NPO法人もの忘れカフェの仲間たち岩島美樹、奥村典子、松本宏子、佐治千恵子、
大島享子、平井彩葉、遠藤淑子、藤本直規**考察**

仕事の場は、内職作業を通して対価を得るという、居場所にとどまらない働く場として続けてきた。そのため、作業ができなくなった時に本人、家族と話し合い、現状を受け入れて次の支援につなぐことは大変重要であった。また、その見極めは、年齢が若いから仕事ができる場所を提供すればいいということではなく、誰が働きたいと思っているのかという、最も重要な視点を再考させる機会ともなった。



発表者：佐治 千恵子

仕事の間と心理教育の間で開催した 若年認知症実践研修会と 軽度認知症実践研修会の報告 レポートから見てきた受講生への効果とは

滋賀県診療所型認知症疾患医療センター
(医療法人藤本クリニック)
NPO法人もの忘れカフェの仲間たち

佐治千恵子、奥村典子、大島享子、岩島美樹、
松本宏子、平井彩葉、遠藤淑子、藤本直規

考察

若年、軽度認知症者への支援の方法を実際に見聞きしながら、支援場面で参加することを中心に行った今回の研修は、受講生の所属や職種に関係なく、認知症の人たちの言葉や姿から強みを感じ、本人たちが自ら決め、動くという人としての視点と、症状の特徴を理解した上で、病気の受容を促しながら行う支援の重要性の両者を再認識する研修として、役割が果たせたと思う。



発表者：大島 享子

診断直後の本人、家族への 心理教育の実際

病気の受容に働きかけた、
連続性のあるプログラムを活用して

滋賀県診療所型認知症疾患医療センター
(医療法人藤本クリニック)
NPO法人もの忘れカフェの仲間たち

大島享子、平井彩葉、佐治千恵子、岩島美樹
松本宏子、遠藤淑子、奥村典子、藤本直規

考察

「目的の確認と参加の意思確認」から始まり、6回のテーマに連続性を持たせて実施したことは、参加者自らが症状を知り、それを互いに話し合い、対応策について学ぶという、病気を受容するプロセスに働きかけた。そのためには、支援者である私達が、本人への症状の説明と生活の中での対策について繰り返し伝え、お互いに話し合うことが重要だった。



発表者：奥村 典子

若年認知症の人に対して行った 職場における就労継続支援の実際 専門医療機関として果たす役割とは

診療所型認知症疾患医療センター藤本クリニック
NPO法人もの忘れカフェの仲間たち
奥村 典子／藤本 直規

考察

若年認知症者への支援として、重要なことのひとつが職場における就労継続支援であり、それを実践するためには、本人、家族が診断後に正しく病気を受容し、職場ともオープンな話し合いを持てるようになることが必要であった。

また、職場の同僚等へも認知症の理解を促すために、職場における具体的な事柄でアドバイスすることが求められ、同僚の心理的負担についても観察と判断が必要だった。

一方、就労継続にとられすぎて、休職の時期を見誤ると仕事に向き合う気持ちの低下や同僚との関係性が崩れるなど、その後の生活にも影響を与えてしまうことも忘れてはいけなかった。そのためにも、適切な支援と見極めが行えるよう、本人・家族・職場とのつなぎ役は、専門医療機関の果たす役割と考え、「在職中からの様々な課題への支援」と「就労を終えた後の場作り」まで、中断させることのない、「一連の体制作り」が必要だった。

若年認知症者への、職場における就労継続支援とは、定年まで職務が全うされることだけを目指すのではなく、「本人を含めた職場全体が心身ともに健康に働くことができる」その期間を最大限長く保つことだと考える。

日本認知症ケア学会 in 神戸に参加して

▶ ケアのこと様々な観点から学べる機会 Y:W

認知症の学会へ初めて参加させていただきました。

認知症ケアの重要性が年々増す中、学会誌を片手にパネルに視線を向ける来場者の熱意が強く伝わってきたのがとても印象的でした。

そんな空気が漂う中、自然にその場に引き寄せられるも雰囲気だけで気持ちがいっぱいになってしまった私は、肝心な発表の主旨や意図を把握しきれないまま会場を後にしたことが非常に心残りとなりました。

この会は、実際に現場で行っているケアを様々な観点から学ぶことができる場だと思いました。学会と聞くだけでハードルを上げていましたが、実際に足を運んでみて自分こそ行くべきところであると考えを改めました。

学会に限らず、事例や報告などを聞かせていただく機会は今後もあるので、この機会をチャンスと感じ、これからのケアの手がかりとしていきたいと思いました。

▶ すばらしい発表を間近で、貴重な経験 S:A

私は初めてケア学会に行かせていただきました。認知症ケアに携わる方々が、全国各地から集まられており、たくさんの人たちで驚きました。演題も様々なものがあり、演題用紙も発表者によって違っており、独自性があったのが印象的でした。藤本クリニックでは、用紙が青色ベースで制作されており、なぜ青色なのかなと疑問に思っていました。ケア学会の会場に行き、演題用紙が青いことで、数ある中から目につきやすく、注目してもらえるからかなと、少しその意味が分かったような気がしました。準備から当日の発表まで、本当にいろいろな所まで工夫され臨まれているんだなと改めて知ることができました。

▶ 藤本クリニック全国的に注目、より意欲 H:M

全国のそれぞれの取り組みや研究発表を聞けるチャンスだと思って毎年参考にしています。他の施設などの取り組みをいくつか聞かせてもらい、良いと思う所はどんどん吸収していきたいと思いました。また、藤本クリニックの発表を改めて聞くことで、今していることへの理解が深まるとともに、全国的にも注目されているのだと知ることができ、私たちにとっては、いつもの活動ですが、より頑張ろうと思えた大会でした。

▶ 知らないことを知る機会に S:M

会場に入って参加されている方の人数に圧倒され、認知症に対しての関心度や研鑽の深さを感じました。

ポスター発表ではスタッフの数力月の取り組みを通して、藤本クリニックがやってきた実績が発表されましたが、認知症の方や家族の方と向き合い、研修で認知症のことを広げる取り組みなど専門医での役割など、まだ知らないことを知る機会となりました。

午後からの講演会に参加して、薬のことや毎年変わる制度など、認知症の新しい情報を知っていくことで、今の仕事につながると感じました。

▶ 質問タイムに疑問点聞けず反省 S:K

8年前に初めて参加した大会では、試行錯誤しながらの現場からの実践報告が多かったような印象が残っていますが、久しぶりに参加した今回「認知症ケアを究める」というテーマどおり、より深く追求した内容が多く、ここ数年でどのチームもレベルアップの努力をしておられるのだと感じました。会場では主にポスター発表を中心に聴いていましたが、発表者の熱意が伝わってきて感動したチームがある一方で、よくわからず疑問の残るチームもありました。せっかくの質問タイムにその点を聞けなかったのは、もったいなかったと反省しています。

▶ 認知症のことを色々学ぶことができた N:K

新オレンジプランを制定されてから地域の施設で色々取り組まれていることを学ぶことができました。また、クリニックの先輩達の発表で、今まで行ってこれた心理教育や交流会などのことを知ることで、認知症に対しての取り組みはもちろん、認知症の方やその家族に対しての心のケアをクリニックだけでなく、それぞれの事業所で課題にされていることを直に知ることができて良かったです。

▶ 前向きな活動の場面がわかった。F:S

藤本クリニックは5人のポスター発表でした。発表までの取り組みの資料作りやポスター貼りの当日にわたって多くの時間と苦労や緊張感など考えられないくらいだったと思います。しかし、私は学会に参加するのは初めてで、いったいどんなものなのかというレベルの参加でした。場所も神戸だったため、近く幸運だったと思います。

展示室のパネル発表は、小さく区切っていたため、割と聞き取りやすかった。でも、このような形でも話を聞くのは慣れていないため、内容の理解までできなかったと思う。また、多くの認知症と向き合う団体の前向きな活動の場面が少しわかったと思う。



藤本クリニック 外来診療時間変更のお知らせ

2016年6月より、土曜日を休診とさせていただき、月曜から金曜日までの診療とさせていただきます。木曜日の午後も診療しています。（原則予約制）

	診療時間	月	火	水	木	金	土
午前診	9:00～12:30	●	●	●	●	●	×
午後診	14:30～17:30	●	●	●	●	●	×

休診日／土曜・日曜・祝日

《新刊著書紹介》

最近、出版しました本をご紹介します。

「認知症とともに生きる」とよく言われるが
どのように生き、生活しろというのか…？
また、それはなにを意味するのか…？？
絶望感にさいなまれたこの心を、
だれがどのように救ってくれるのか…？？
それでもあなたは「生きろ」と言うのか！？

『わたし「認知症」と言われてしまいました』という、
なんとも衝撃的なタイトルをつけました。
この将来を閉ざしてしまうようなタイトルですが、
ここには、しっかりとわが身に起きた事実を認識し、
そして、諦めずに覚悟をもって明日に向かって生きる
という切実な願いが込められています。
そのための一助として、本書を役立ててください。



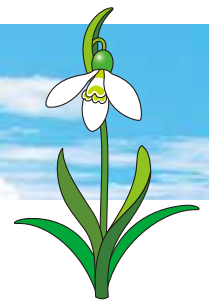
『わたし、認知症といわれてしまいました』

- 発 行：ワールドプランニング
- 著 者：藤本 直規 / 奥村 典子
- 定 価：1,000円

※購入ご希望の方は、藤本クリニックにお問い合わせください。

NPO法人 もの忘れカフェ®の仲間たち

「ひとりひとりが当たり前で生活できる社会を目指したい」
そのための集いの場です。



NPO 法人 もの忘れカフェの仲間たちの
シンボルマーク 《スノードロップ》

《ご報告》

一年間ありがとうございました。
平成28年度もよろしくお願いいたします。

平成27年度末の会員数……………正 会 員／78名
……………賛助会員／18口

「仕事の間」開催回数…………… 47回／年間
(延べ人数) —————

- ▶ 認知症参加者数（若年・高齢者軽度）……………661人
- ▶ 発達障がい等を持つ参加者数……………101人
- ▶ 社会に適応しづらい若者参加者数…………… 52人
- ▶ 老人会住民参加者…………… 84人
- ▶ 家族等ボランティア（会員）……………190人
- ▶ 支援者ボランティア（会員）……………131人

(合計 1,219 人)

たくさんの参加者、支援者に支えられて、仕事の間も5年目です。



平成28年度 活動計画

《活 動 方 針》

若年認知症者等に対する就労継続支援、本人・家族等に対する相談・支援活動、医療・介護・保健・福祉関係者に対する研修指導等を通じて、身近な地域で、本人や家族の尊厳が守られ、生活の質を維持する支援体制の充実を図り、安心して暮らせる地域づくりに寄与していきます。

《事 業 計 画》

(1) 認知症や発達障がいなどの精神障がいを持つ人等の就労及び交流、社会参加への支援

若年認知症・高齢軽度認知症・他の障がいを持つ人、社会に適応しづらい若者、介護をされているご家族、介護を終えられたご家族、老人会などの住民、その他、

それぞれの支援者やかかりつけ医など、制度の枠を超えた「働く」場と社会参加の場の提供を行います。

- 年49回の開催を予定しており、家族ボランティア延べ120名、支援者ボランティア延べ140名の皆さんに参加・支援をいただきます。
- 仕事の間継続運営と、就労者の収益増のために、仕事受注に向けての働きかけを行います。
- 仕事の間への参加者の病状等を見極め、医療、保健、福祉と連携し、空白期間ができない形で、支援の継続を行います。
- 新しく、仕事の間作りにチャレンジしようとする施設・事業所について、研修受け入れや施設・事業所に出向いて支援を行います。
- 障がい関係機関等との連携強化を継続的に行います。

(2) 認知症の人に対する医療・介護・福祉等に関する研修及び指導

- 仕事の場合への参加と、今までの経緯や取り組み、ケアの視点などを学ぶ機会として研修を行います。
(参加料金3,000円)
- 「第2回認知症にかかる医療と介護の滋賀県大会」への発表を目的とした自主勉強会を実施します。
- 介護施設、事業所等で開催される、本人、家族、住民等への研修会等の後方支援を行います。
- その他、適宜、専門職等を対象に研修会を実施します。

(3) 認知症の理解促進に関する研修及び啓発に関する事業

- 広報紙「café通信 スノードロップ」を発刊します。
(3回／年)

- カレンダー作成と販売を行います。
- ホームページにおいて、随時、活動報告など啓発活動を行います。
- 第57回 日本神経学会、第17回日本認知症ケア学会で取り組み報告(5演題)を行います。

(4) 認知症の人が利用できる介護サービスおよび公的助成制度の拡充

若年認知症の関係企業、行政機関等に対して、制度拡充のための助言・提言・相談を実施します。

(5) 認知症の人と家族・関係者に対する相談および支援

認知症の人の家族、住民、専門職、行政等に対する面談、電話相談、現地相談等を実施します。

平成28年度も皆様のご参加お待ちしております！

平成28年度 通常総会



●と き／**6月26日(日) 午後1時30分～**

●ところ／**守山駅前コミュニティーホール**

6月26日(日) 守山駅前コミュニティーホールにおいて、平成28年度通常総会・特別講演会が開催されました。

総会の成立要件である、対象人数の過半数を超えるご出席をいただき、提出案件4件について審議され、すべて承認されました。

NPO法人 もの忘れカフェ®の仲間たち 特別講演会

NPO通常総会終了後、NPO法人日本コンチネンス協会 西村かおる先生をお招きし、特別講演会を開催しました。

昨年に続き、2度目のお願いを快く引き受けてくださり、今年も排泄の大切さを楽しく分かりやすく教えていただきました。



「気持ちの良い排尿、排便のケア」

NPO法人日本コンチネンス協会 西村かおる 先生

●とき/6月26日(日) 午後2時～ ●ところ/守山駅前コミュニティーホール

今回の講演会に向けて、デイサービスの参加者が垂れ幕作りを担当しました。▶

色鮮やかな垂れ幕が完成し会場がより明るくなりました。

まず、正常な排尿、排便とはどんな状態か？と考えることから始めました。

普段はあまり気にせずに生活してしまっていますが、具体的な回数、色、量、状態等から、それぞれどのような原因でどんな問題が考えられるのかを教えていただき、正常な排泄、排便に必要な水分摂取や食事、機能的食品の働きなど、日常の介護や健康管理にすぐに実践できるお話でした。

排泄というと、出ることのみに注目してしまいがちですが、身体機能、食事、運動、睡眠、気持ちの持ち方まで全てが整う必要があり、排泄を考えるということは、人の生活全部を考えなければならないということを学ぶことができました。

今回も、先生ご自身の経験やエピソードをたくさん織り交ぜてお話していただき、食事日誌を体験することで自身の生活を振り返ったり、実際に体操を一緒におこなったりと、楽しい雰囲気での講演会でした。



～ 特別講演会アンケートより～

- ▶ また新しい情報を知り自分の仕事に活かしていきたいです。来年も是非お話を聞きたいです。
- ▶ 排泄には様々な要因が関係していて、良い排尿、排便とは何かを考える機会になりました。
- ▶ 排泄は当たり前のことですが、気持ちの良い排泄を考えることは大事なことだと思った。
- ▶ 腸内細菌の働きがよく理解できた。さっそく試してみようと思う。
- ▶ 排泄は出すことを目的とするのではなく、生活全体を考えて、ストレスなく楽しく生きていくことが大事であると学べた。

NPO法人 もの忘れカフェ®の仲間たち 仕事の間ネット

第1回 仕事の間ネット開催!

28年度 第1回目の仕事の間ネットを6月29日に開催しました。滋賀県内4か所の「仕事の間」からの状況報告の後、模擬事例を通してディスカッションをしました。市町からの後方支援や、運営主体からの課題など、様々な意見交換を行いました。

今年度は、今後の方向性として、「居場所」なのか「仕事」なのかなど、具体的な検討を行っていく予定です。

NPOとしましても、「仕事の間」の運営主体として、あらゆる視点で振り返り、今後に向けての立場を決めていきたいと思いますので、皆様方からのご助言、ご指導をお願いいたします。



新しい仕事に取り組んでいます!

▶▶▶▶▶▶▶▶ ペンケースの組み立て ◀◀◀◀◀◀◀◀

6月より野洲市内にある由貴産業よりペンケースの組み立ての内職の受注が始まりました。3カ月ほど前にこの仕事の間のお話と内職を探している旨をお話させていただき、その時期には納期等の条件が合わず、内職受注希望の登録を行い、連絡待ちとなりました。

5月の終わりに会社から「納期が先の手先のリハビリも兼ねて出来る内職があるんやけど」との連絡があり、早速スタッフが話を伺いに向かい、受注につながりました。

すぐの内職受注にはつながらなかったものの、仕事の間これまでの取り組みや、目的、条件や希望など私たちの話をしっかりと受け止めていて下さったことで今回の受注につながり、自分たちから積極的に色々な所にあたっていくことは大切だと改めて感じました。

色々な所をあたってもなかなか受注につながらず難しいことも多いですが、これからも内職受注に向けて動いていきたいと思います。皆さまの中で内職に関する情報がありましたらぜひともご紹介いただければ幸いです。

ペンケースの組み立ての内職は、①ペンケース内部の箱組立 ②取説用紙をクリアケースに入れる ③箱をケースにセットする等それぞれの工程を分担しながら行っ

ています。

全員が分担で1つの商品が見える形で完成するということが分かりやすく、より意欲的になるご様子です。

現在受注している内職の中で出来る仕事に限られてきていた参加者の方も、新しく挑戦してみることが出来ることが増え仕事の幅が広がることもありました。

新しいことに対して、認知症の症状から変化に弱くなっておられる部分もありますが、一度挑戦してみようというお気持ちは全員から伝わってきており、配慮も行いながらこれからも取り組んでいきたいと思っています。



妻と共に歩む (7)

私の実践介護

藤本 寿雄

前回までの「妻と共に歩む」では、目線を合わせることでや大事に思っけて寄り添うことの大切さなど、本人との向き合い方や自分自身の心の持ち方などについて書いてきました。

今回からは、具体的にどのように介助・介護にあたってきたのかを、「食事編」「排泄編」などに分けて書き記すことにします。

あらためて妻と私のこと

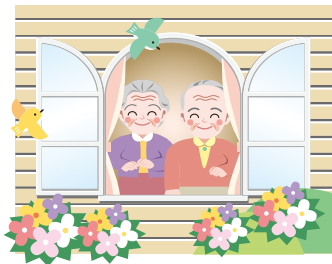
妻は現在71歳、私は8月で74歳になります。アルツハイマー型認知症の診断を受けたのは2001年12月でしたので、間もなくまる15年になります。その後徐々に症状が進み、2010年10月に要介護5の認定を受けました。それから間もなく6年、最近は足取りが覚束なくなり30分以上の散歩が難しくなったり、食事介助にずいぶん時間がかかるようになってきましたが、穏やかな表情で毎日を過ごしてくれています。

【食事編 ①】

男性介護者の場合、最初に料理でつまづく人が多いといひます。私たちは「男子厨房に入らず」の世代ですから当然のことです。

家庭の味

診断から1年後の2002年の年末におせちの準備で紅白ナマスを作っていた時、砂糖大さじ3、酢大さじ5の計量中に何杯入れたか分からなくなり、作ることができ



ませんでした。当時はまだ包丁も使えましたが、料理を作ることもなんとかできましたので、「家庭の味」を維持するためには私が習ひ覚えるしかないと思ひ、早速空いた時間に、作り方を教えてもらうことにしました。

今も、子供たちが来た時に唐揚げを作ると「お母さんの唐揚げ」と喜んでくれます。この病氣と向かい合う上では、できるだけ元通りの生活を続けることが大事です。慣れ親しんだ家庭の味を守ることは、長い老後の生活を送るうえでとても大切なことだと思ひます。

「引き継ぎ」に取り掛かる

同じ頃には何がどこにあるのか、私にはよくわからないので、家の整理を始めました。妻の作ったレシピ帖もたくさん出てきました。同じ料理のレシピがあちらにもこちらにも書き付けてありました。「忘れては大変」という思ひからだったのでしょうか、私には「家庭の味をしっかり守ってね」と言われているような気がしました。

「怪しくなってきたな」と感じたら、すぐに「引き継ぎ」に取り掛かるのがいいのではないのでしょうか。

NPO主催の自主勉強会を開催します。

自主勉強会とは、認知症の人たちをケアする様々な施設の職員が、「もっと病氣について知りたい、勉強したい」との思ひから、自主的に集まり、本などから学んだり意見交換をしています。藤本クリニックにて3時間取り組んでいます。同じ認知症の人たちをケアする者同士で意見交換すると、気づくことがあったり、自分の施設を見直したり、頑張ろうとする氣が出てくる場でもあります。

前年度は学び、ケアの現場で実践した成果をまとめ、「第1回認知症にかかる医療と介護の滋賀県大会」(平成28年3月20日開催)にて発表しました。

今年度も「第2回認知症にかかる医療と介護の滋賀県大会」(平成28年12月18日開催予定)での演題発表を最終目標としながら、自分たちが取り組んだケアについて振り返り、まとめるなどし、より学びを深めようと考えています。

今年度は7月12日をスタートに年3回の自主勉強会開催を予定しています。申し込みはしめきりましたが、10数名の参加が予定されています。

これからも自主勉強会の場を中心に学ぶことで少しでもケアに生かせることができればと思ひます。

暑中お見舞い申し上げます。



医療法人 藤本クリニック
NPO法人 もの忘れカフェの仲間たち

会 員 募 集

平成28年度NPO法人もの忘れカフェの仲間たちの会員になり、一緒に活動しませんか？

若年認知症の人たちを中心とした「仕事の場」への参加研修等、様々なことについて、ぜひ ご一緒に活動をしましょう。

入会ご希望の方は、藤本クリニックのホームページ (<http://fujimoto-clinic.net/cafe/recruitment.html>) より「会員申込み書」PDFをダウンロードしてFAXまたは郵送でお送りください。

年会費は下記口座へのお振込み、または、藤本クリニック受付へ直接ご持参ください。

●年会費振込口座…滋賀銀行守山支店 普通預金 口座番号／395004

もの忘れカフェの仲間たち 代表 藤本直規

内 職 募 集 急募!

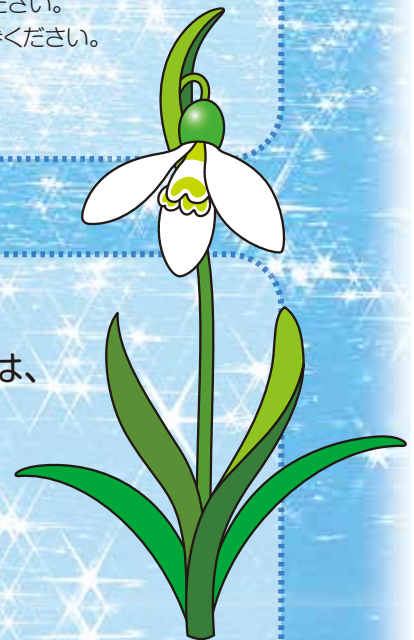
若年認知症の人たちを中心とした「仕事の場」では、私たちにできる「内職作業」を探しています。

ぜひ、お声かけをお願いします。

●お仕事をいただける方は、下記へお願いします。

連絡先 **Tel 077-582-6032**

(担当 奥村まで)



NPO 法人 もの忘れカフェの仲間たちの
シンボルマーク 《スノードロップ》

**広告
募集**

●当広報誌(café通信スノードロップ)に掲載する広告を募集しています。

社会的信頼度・組織企業のイメージアップにつながります。

▶広告種類…記事下広告(カラー印刷) ▶広告サイズ…よこ174mm×たて30mm(当枠サイズ)

▶広告回数…3回/年 ▶発行部数…1,500部/年

▶配布先…もの忘れカフェの仲間たち会員・ご家族・
支援者・医療・福祉関係者・行政機関 ほか

▶広告料金…1枠 3,000円/1回

■ 広告掲載のお申込・お問い合わせは

Tel 077-582-6032

(NPO法人 もの忘れカフェの仲間たち 担当/奥村まで)

スノードロップの

つぶやき

絵はがき

デイサービスでの人気の活動に
絵を描くことがあります。

絵の得意な方もそうでない方も
『季節を感じる、指先を使うリハビリ
色や配置を考えたり感じたりする事』
などを目的に取り組みます。

花瓶の花を見ながら描かれる方や
見本になる本などを探され描かれる方
見本をコピーして色付けしたり

全体に色を塗って

それを色々な形に切り抜いたりもします。

出来上がった様々な大きさの絵を
ハガキに印刷すると

「上等になったなあ」「こんな絵でええのか？」
など言われながら満足そうに微笑まれます。



◀ この絵はがきは、
5枚1組 100円でクリニック外来受付にて販売しています。
一度手に取って和んでいただけたら幸いです。



編集後記 ~ monowasure ~

仕事の間がスタートして10月で丸5年。よく働いたな……と振り返ります。
5年目を一つの節目として、今後の進む道について考える時を迎えました。
働くのか集うのか・・・どちらにしても、もの忘れカフェの仲間たちが元気に、幸福に過ごせることを願って、思いっきり知恵をしぼります。みなさん、良い知恵を授けてくださいね。

